





放射線腫瘍科 松井 謙吾 先生が勇退されます。

本院の健康管理センター（現：予防医学センター）と放射線腫瘍科、湘南藤沢徳洲会病院の放射線科に勤務され約21年。2023年3月31日をもって勇退されることになりましたのでご報告いたします。

今日まで大変お疲れ様でした。

これまでの医師生活の中で二年という歳月は一番長いものでした。新しく予防医学、遠ざかっていた放射線腫瘍学も再び学ぶことができ、充実した毎日でした。これも地域の方をはじめ、歴代理事長・院長・職員のおかげです。皆さまに感謝しつつお別れの挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

松井 謙吾

面会制限のお願い

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、**面会制限**をおこなっております。
ご理解・ご協力の程お願い申し上げます。

原則として、以下のようにお願いします

- ① 面会は短時間（おおむね15分）
- ② 時間帯は15時から18時まで
- ③ ご家族のみ（同居でなくても可能） 少人数（おおむね2人）
- ④ 手洗い、マスクの着用をお願いします
- ⑤ 発熱や風邪症状がある方は面会はお控えください
- ⑥ 入院患者様との飲食は禁止です
- ⑦ 病室内のみ



※主治医の認めた場合はこの限りではありません ※出産時については別途ご相談



SHONAN
湘南鎌倉総合病院広報誌

しょうなんめーる

Mail

Number 187
2023 March



▶ 特集 ◀

人工関節センターのご紹介

総合診療科Dr.の 本心に伝えたいこと Vol.1

第4回世界腎臓デーin鎌倉を開催します

お知らせ 放射線腫瘍科の松井先生が勇退されます

撮影者: 放射線腫瘍科 松井 謙吾
撮影場所: 山梨県北杜市 実相寺 山高神代桜

はじめに

日本は世界一のスピードで高齢化が進む超高齢化の国として知られていて、膝のすり減り・変形でお困りの患者さんが年々増えています。

当センターはこのような膝のすり減りや変形による疼痛・歩行障害などでお困りの患者さんに対して、人工膝関節の手術によって治療をおこなう専門の医療施設です。

人工膝関節による手術治療

CENTER 人工 膝 関節センター OF ARTIFICIAL KNEE JOINT

人工膝関節置換術とは

変形して曲がってしまった膝をまっすぐに伸ばし、変形による膝関節面からの痛みを取り除くうえで大変優れた手術です。変形した膝の関節面を切除して、人工的に作った膝関節に置き換えます。人工膝関節は金属でできた大腿骨側の部品（大腿骨コンポーネント）と脛骨側の部品（脛骨コンポーネント）および大腿骨・脛骨コンポーネントの間にはさむポリエチレン製の部品から構成されています。



▲両膝のO脚変形の一例

▲両側人工膝関節術後の一例

- 回数：1回
- 費用：保険適用になります。患者さんの所得によって異なります。
- 主なリスクや副作用：
 - ①麻酔・痛み止めなどの薬が体に合わないことがあります。
 - ②手術後、創部に菌が入り膿んでしまう可能性があります。

人工膝関節全置換術

Total Knee Arthroplasty:TKA

膝関節の表面をすべて人工の関節に置き換える術式



人工膝関節部分置換術 (または単顆置換術)

Unicompartmental Knee Arthroplasty:UKA

膝関節の内側の一部のみが変形している場合におこなう術式



▶人工膝関節各コンポーネント



▲左) 内側の隙間がなくなり骨が直接当たっている
▲右) 関節鏡で見た軟骨のすり減った膝変形



当センターの特徴

手術は全身麻酔で眠っている間におこないます。

人工膝関節全置換術も人工膝関節部分置換術も変形してしまった膝関節表面の骨を切り取って、大腿骨・脛骨コンポーネントとポリエチレンを設置するためのすきま（ギャップと言います）を作ります。膝がぐらつくことなくスムーズに動くためには、膝を伸ばした時にも曲げた時にもきつすぎず、緩すぎないようにちょうど良いすきま（ギャップ）を作ることが重要です。

このための手術方法がいろいろあり、学会や論文などで発表され、それぞれに長所・短所があり議論が繰り返されてきました。人工膝関節全置換術の方が人工膝関節部分置換術よりも変形の強い場合に用いられ手術方法も複雑です。当センターの人工膝関節全置換術の特徴は、今まで議論されてきた代表的な手術方法の長所を組み合わせ、短所を補うように融合させた手術方法（大腿骨後顆プレカット法と言います）を用いていることです。手術の途中の段階でプレカットトライア

ルという仮の小さな大腿骨コンポーネントを設置することにより、実際の大腿骨コンポーネントを設置した場合と同じような状態にして関節のすきま（ギャップ）を確認し、その後に1mm単位の正確な調整をおこなっています。



側面像



手術時

▲大腿骨後顆プレカットトライアル（手術中にギャップ確認のために一時的に使う小さな大腿骨コンポーネント）

手術当日の過ごし方

術後は膝を曲げておしりを上げたり下げたりの運動や寝返りなど下肢だけでなく体全体の運動を指導しています。

手術後は何も指示をされないと、絶対安静だと思い込んで体を全く動かそうとしない方がほとんどです。1日中体を動かさずに寝ていると手術とは関係のない腰まで痛くなってしまいます。手術直後から下肢の運動をおこなうことは重大な合併症の一つである下肢深部静脈血栓症（エコノミークラス症候群の元）の予防にも有効です。

しかし、手術後すぐに下肢を動かすことは強い痛みがあつてはできません。手術後の痛みを和らげる神経ブロック注射や点滴の痛み止めを使うことにより、できるだけ強い痛みを感じることなく下肢の運動や寝返りなどの運動ができるように工夫しています。



◀手術後すぐに、自分で膝を曲げておしりを上げ下げする、寝返りをするなどの運動をします。

手術翌日からのリハビリ

早期のリハビリの中で最も重要なことは、膝が癒着しないように曲げ伸ばしの練習をすることです。

手術後は出血により膝が腫れています。出血した血液は時間とともに周囲の組織にくっついてしまいます(癒着と言います)。手術後に膝を動かさないでじっとしていると癒着によって伸ばすことも曲げることもできなくなり、そのまま固まってしまいます(拘縮と言います)。癒着は手術後数日で始まり、およそ2～4週間ほどで完成してしまいます。癒着により一度拘縮が完成してしまった膝は、その後のリハビリの努力で曲げ伸ばしを改善させることは困難です。

したがって手術後の早期のリハビリの中で最も重要なことは、膝が癒着しないように曲げ伸ばしの練習をすることです。手術翌日からは膝の曲げ伸ばしと立つ・歩くなどの練習を始めます。膝を曲げる練習はリハビリテーション科の理学療法士が指導します。膝の下にクッション(膝リハビリクッションと言います)を挟み、タオルを使って自分で膝を曲げる練習を1日10回おこないます。自分で引っ張るので曲げる強さを自分で調節できます。1日に何回も練習することにより、膝の癒着と拘縮を防ぎます。この練習を繰り返すことで以前に比べて膝の曲がる角度がますます良くなっています。人工膝関節全置換術では手術後に120度曲がればいい方とされていますが、ほとん

どの患者さんが手術翌日に平均100度以上、退院時には120度を越える角度を達成でき、中には140度以上曲がる人も珍しくない良好な結果が得られています。



▲手術翌日から膝リハビリクッションとタオルを使い自分で曲げる練習を始めます。



▲手術後に膝が140度以上曲がる人も珍しくありません。一部の人は150度以上曲がっています。



入院期間

入院期間は人工膝関節全置換術で12日間、人工膝関節部分置換術で7日間ほどです。早期退院希望の方はトイレ歩行ができるようになれば、より短い期間で退院することも可能です。ただ、この時点では腫れも強く残っていて曲げ伸ばしの練習も十分ではありませんので、退院後のリハビリがとても重要です。

両膝同時手術について

膝の変形は両膝同時に進行することも珍しくありません。両膝の変形・痛みでお困りの場合、片膝ずつ手術をするとう2回の入院・手術・リハビリをおこなうことになり全体の治療期間が大変長いものとなります。同時に両膝の人工膝関節置換術を希望される場合は、全身状態を鑑み問題がなければ手術をおこないます。

両膝同時手術の場合でも手術当日・翌日の運動やリハビリは片膝の手術と同じようにおこなっています。

RYUTAKU KANAYAMA

センター長 **金山 竜沢**

1988年 千葉大学医学部卒業、千葉大学医学部整形外科教室入局
1989年 熊谷総合病院整形外科勤務
1990年 国立習志野病院整形外科勤務
1991年 君津中央病院整形外科勤務
1992年 八街総合病院勤務
1993年 渡辺整形外科病院勤務
1994年 千葉大学整形外科へ帰局しリウマチ、人工関節分野での研究・臨床に携わる
1996年 米国フロリダ州ウェストバームビーチ、Good Samaritan Medical CenterにてScott Banks PhD(現フロリダ大学教授)のもとで人工膝関節術後の動態解析について研究
1997年 千葉社会保険病院勤務
1998年 君津中央病院整形外科勤務
2005年 君津中央病院整形外科部長就任
2008年 船橋整形外科病院勤務 人工膝関節部長
2018年 北千葉整形外科勤務 人工関節外科部長
2020年 4月 湘南鎌倉総合病院 人工膝関節センター センター長



認定等: 医学博士、日本人工関節学会認定医、日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本リウマチ財団登録医
所属学会: 日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本人工関節学会、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、日本関節病学会、Orthopedic Research Society など

HIROYUKI OKUYAMA

医員 **奥山 裕之**

2012年3月 弘前大学医学部卒業
2012年4月 大船中央病院初期研修医
2014年4月 藤沢市民病院 整形外科
2015年4月 横浜市立大学附属病院 整形外科
2016年4月 横須賀共済病院 整形外科
2017年4月 平塚共済病院 整形外科
2019年4月 寒川病院 整形外科
2021年4月 湘南鎌倉総合病院 人工膝関節センター

認定等: 日本整形外科学会専門医
所属学会: 日本整形外科学会、日本人工関節学会、日本骨折治療学会



さいごに

遠方にお住まいで当センターでの手術を希望する方もご相談を受け付けています。ただし、遠方にお住まいの方は通常通りの受診やリハビリ通院が困難になるものと考えられますので、まずお近くの通いやすい整形外科を受診して術後のリハビリをしてもらえるか相談をしてください。その上で当センター宛ての紹介状を書いていただくといでしょう。

人工膝関節置換術は膝の変形・痛みで悩んでいる患者さんにとって最後の手段ですが、最近では20年、30年以上の良好な臨床成績も報告されています。一方で、多くはありませんが合併症のリスクも0ではありません。どういったリスクがあるのかについても丁寧に説明をしております。膝の変形による痛みでお悩みの方は一度受診してご相談ください。

完全予約制

外来

お問合わせ **0467-46-7172 (直通)** 月曜日から金曜日 10:00~16:00

第4回 世界腎臓デー in 鎌倉

を開催します!!

2023年3月9日(木) 13:00~

会場：鎌倉芸術館 小ホール
12:15 開場 13:00 開演
15:00 終了予定

参加費：無料
申込方法：会場での参加は申込不要
オンライン(Zoom)での参加は事前登録が必要
(右記QRコードからお申し込み下さい)



毎年3月の第2木曜日は

世界腎臓デー

世界腎臓デーは、国際腎臓学会と腎臓財団国際協会が共同で提案し、2006年に始まった国際的な記念日です。日頃から腎臓の大切さを意識してほしい!と願い世界中でさまざまなイベントがおこなわれています。

タイムテーブル

13:00 ~

総司会 日高 寿美
腎臓病総合医療センター センター長

開会のご挨拶 小林 修三
湘南鎌倉総合病院 院長

第1部

医療講演：成人の8人に1人が罹患する慢性腎臓病(CKD) ~生活習慣病との関係~

持田 泰寛 腎臓病総合医療センター 部長

Let's try! 腎臓体操~運動が腎臓を元気に!
腎臓をケアする体操

西村 彰紀
作業療法士・腎臓リハビリテーション指導士

(休憩10分)

第2部

14:05 ~

多職種 CKD 対策チームプレゼンツ

「ある日の腎臓内科外来での腎臓病診療の実際」
(腎臓病外来にお越しになる典型的な患者さんの事例を多職種から解説)

持田 泰寛(腎臓内科医) 今井 みどり(看護師)
大塚 秀人(薬剤師) 古旗 省吾(管理栄養士)
西村 彰紀(作業療法士) 他

新型コロナウイルス感染症のための対策を取り開催します。
感染対策へのご協力をお願い申し上げます。

総合診療科 Dr. の

本当に伝えたいこと

Vol.1

熊谷 知博
総合診療科 医長



大人になってから
肺炎球菌ワクチンを接種しましたか?

肺炎球菌ってなあに?

肺炎球菌は「肺炎を起こす原因第1位」の病原菌です。

肺炎以外にも、敗血症や髄膜炎を代表とする「侵襲性肺炎球菌感染症」の原因菌でもあり、特にご年配の方は重症化のリスクが高くなります。

肺炎は命にも関わりうる病気でもあるので、予防がとても大切です。

肺炎球菌ワクチンってなあに??

肺炎球菌による肺炎などの感染症を予防し、重症化を防ぐ効果があります。1927年に肺炎球菌ワクチンが開発され、1988年には日本でも普及してきました。6歳未満の子どもと65歳以上の方にワクチン接種が推奨※されています。

※ 60歳以上65歳未満の方で日常生活が極度に制限される程度の基礎疾患を有する方も対象

肺炎球菌ワクチンの種類

日本には、ニューモバックス®NP、プレベナー®13の2種類があります。それぞれ長所短所がありますが、いずれも侵襲性肺炎球菌感染症と肺炎の予防効果が示されています。



肺炎球菌ワクチンの重要性

現在は、新型コロナウイルス感染症のワクチンが脚光を浴びていますが、その他にも大人になってから推奨されている多くのワクチンのひとつが肺炎球菌ワクチンです。幼少期に接種されている方も多いですが、肺炎を重症化させないためにも一度お近くの診療所やクリニックへご相談ください。

肺炎球菌ワクチンについてのご相談は...お近くの診療所やクリニックへ